

救急救助編

月別の救急出動状況

令和7年1月1日～12月31日

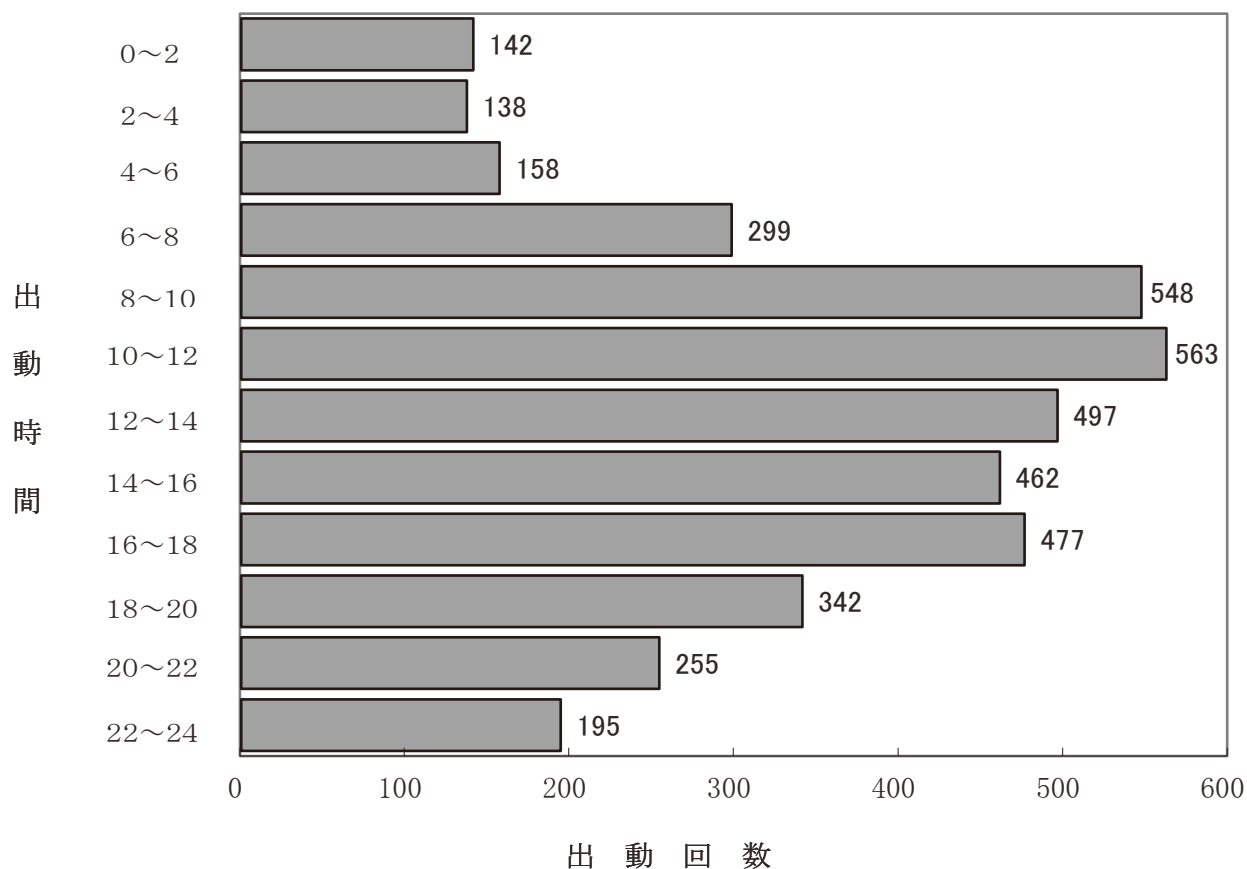
(単位：件、人)

事故種別 区 分		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				計	合 計	不 搬 送
												転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 等 輸 送	そ の 他			
1 月	出動件数	5			9	4	3	61	3	2	257	71			35	106	450	91
	搬送人員				7	4	3	55	1		218	71				71	359	-
2 月	出動件数	3			4	3	2	48	1	2	192	27			12	39	294	54
	搬送人員				5	3	2	41	1	1	161	27				27	241	-
3 月	出動件数	5			5	2		41		4	198	53			15	68	323	45
	搬送人員	1			3	2		36		4	179	53				53	278	-
4 月	出動件数	2			7	3		43		3	190	39			1	40	288	37
	搬送人員				3	3		37		2	167	39				39	251	-
5 月	出動件数	3			4	4	1	55		1	180	32			5	37	285	42
	搬送人員				2	4	1	46			158	32				32	243	-
6 月	出動件数	3			10		3	49	1	3	192	60			1	61	322	38
	搬送人員				8		3	41	1	3	169	59				59	284	-
7 月	出動件数	11			11	8	4	57			218	60			2	62	371	42
	搬送人員	3			8	7	4	53			197	60				60	332	-
8 月	出動件数	9			20	2	1	55		5	245	34			2	36	373	53
	搬送人員	1			20	2	1	47		3	215	34				34	323	-
9 月	出動件数	5			20		2	46		2	193	50			1	51	319	35
	搬送人員				15		2	39		1	176	50			1	51	284	-
10 月	出動件数	5		1	24	1	1	37	3	2	187	58			1	59	320	43
	搬送人員	1			20	1	1	34	2	2	160	58				58	279	-
11 月	出動件数	6			20			45		3	229	66			1	67	370	56
	搬送人員	2			15			37		3	191	66				66	314	-
12 月	出動件数	2			14	1	1	50		2	222	67			2	69	361	47
	搬送人員				9	1	1	40		2	195	66				66	314	-
合 計	出動件数	59		1	148	28	18	587	8	29	2,503	617			78	695	4,076	583
	搬送人員	8			115	27	18	506	5	21	2,186	615			1	616	3,502	-

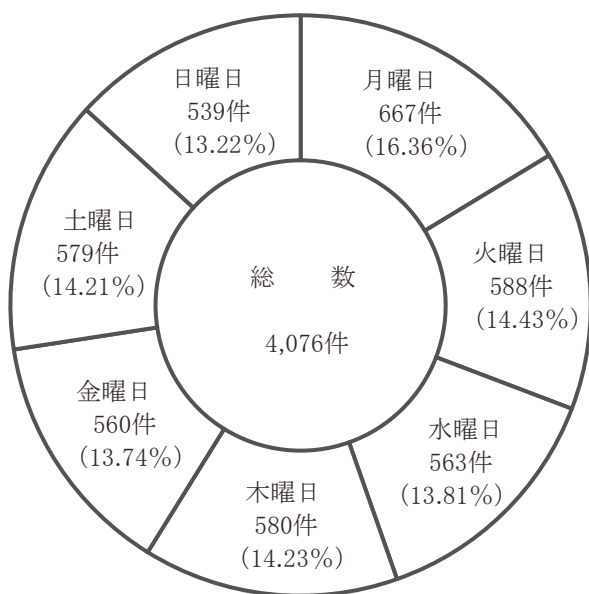
出動 1日平均 11.17 件 (2時間9分に1件)
搬送 1日平均 9.59 人

時間別救急出動件数

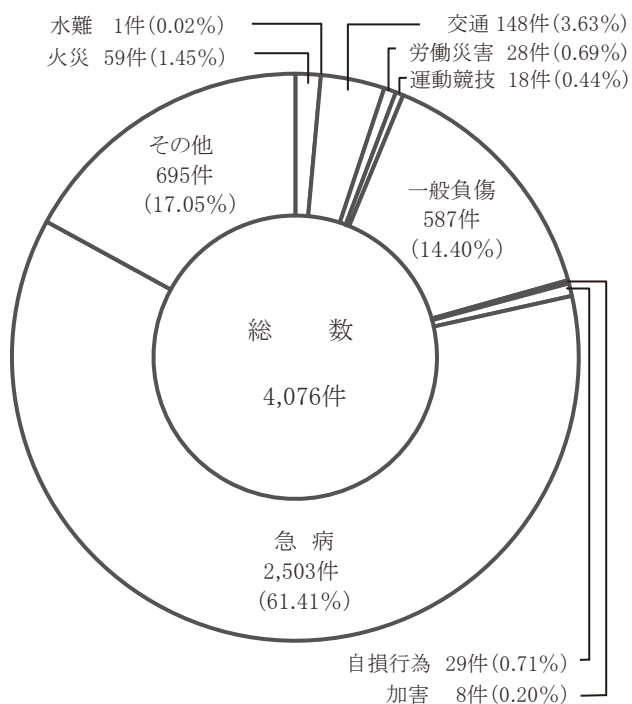
(単位：件)



曜日別救急出動件数



事故種別救急出動割合



※各表 令和7年1月1日～12月31日

出動場所別救急出動状況

令和7年1月1日～12月31日

(単位：件、人)

事故種別 出動場所別		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				合 計	不 搬 送	
												転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 等 輸 送	そ の 他			
岩 見 沢	出動件数	57		1	131	24	18	559	8	29	2,383	593			75	668	3,878	561
	搬送人員	5			106	23	18	481	5	21	2,072	591			1	592	3,323	-
月 形	出動件数				15	4		28			117	23			2	25	189	18
	搬送人員				9	4		25			111	23				23	172	-
そ の 他	出動件数	2			2						3	1			1	2	9	4
	搬送人員	3									3	1				1	7	-
合 計	出動件数	59		1	148	28	18	587	8	29	2,503	617			78	695	4,076	583
	搬送人員	8			115	27	18	506	5	21	2,186	615			1	616	3,502	-

過去5年間の救急出動推移

各年1月1日～12月31日

(単位：件、人)

事故種別 年 別		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				計	合 計	不 搬 送
												転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 等 輸 送	そ の 他			
令和 3年	出動件数	72		1	176	26	8	501	7	42	2,386	562			103	665	3,884	496
	搬送人員	6			164	26	8	464	4	30	2,146	561				561	3,409	-
令和 4年	出動件数	64		2	185	38	10	621	6	31	2,375	513			74	587	3,919	548
	搬送人員	9			151	37	10	567	5	21	2,076	510				510	3,386	-
令和 5年	出動件数	61		2	191	46	14	612	8	39	2,711	556			86	642	4,326	646
	搬送人員	4			177	45	14	555	5	25	2,332	554				554	3,711	-
令和 6年	出動件数	49		2	201	29	27	653	6	25	2,528	581			46	627	4,147	528
	搬送人員	2			172	29	26	594	3	16	2,219	580				580	3,641	-
令和 7年	出動件数	59		1	148	28	18	587	8	29	2,503	617			78	695	4,076	583
	搬送人員	8			115	27	18	506	5	21	2,186	615			1	616	3,502	-

傷病程度別の搬送人員状況

令和7年1月1日～12月31日

(単位：人)

事故種別 傷病程度	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	合 計
死 亡				2			10		5	110	8	135
重 症	1			10	2	1	134		3	448	210	809
中 等 症	3			23	7	1	96		8	665	323	1,126
軽 症	4			80	18	16	266	5	5	963	75	1,432
そ の 他												
合 計	8			115	27	18	506	5	21	2,186	616	3,502

傷病程度

初診時における医師の診断(救急業務実施基準第20条第2項の医師の所見)に基づき次により分類する。

1. 死 亡 初診時において死亡が確認されたもの
2. 重 症 傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
3. 中等症 傷病程度が入院を要するもので重症に至らないもの
4. 軽 症 傷病程度が入院加療を必要としないもの
5. その他 医師の診断がないもの、及び搬送先がその他の場所へ搬送したもの

年齢区分別の搬送人員状況

令和7年1月1日～12月31日

(単位：人)

事故種別 年齢区分	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	合 計
新 生 児											5	5
乳 幼 児	1			2			15			32	4	54
少 年				7		8	15		1	40	7	78
成 人	2			59	21	10	76	4	16	479	122	789
高 齢 者	5			47	6		400	1	4	1,635	478	2,576
合 計	8			115	27	18	506	5	21	2,186	616	3,502

年齢区分

1. 新生児 生後28日未満の者
2. 乳幼児 生後28日以上満7歳未満の者
3. 少 年 満7歳以上満18歳未満の者
4. 成 人 満18歳以上満65歳未満の者
5. 高齢者 満65歳以上の者

救急隊員が行った応急処置件数

令和7年1月1日～12月31日

(単位：件、人)

事故種別	応急処置	止 血	固 定	人工呼吸	胸 骨 圧 迫		心 肺 蘇 生		酸素吸入	保 温	被 覆
	応急処置対象人員					うち自動		うち自動			
急 病	2,186	25	35	5			77	6	519	20	14
交 通	115	12	36				1		11	1	15
一般負傷	506	91	131	2			10	1	21	1	91
そ の 他	695	10	34	3	1		7		199	5	12
合 計	3,502	138	236	10	1		95	7	750	27	132

事故種別	応急処置	気 道 確 保				在 宅 療 法 継 続			ショックパ ンツによる 血圧保持	除細動
		※1	※2	※3	※4気管挿管	※A	※B	※C		
急 病	53	1		49	1	2		1		10
交 通	2									
一般負傷	6		4		1					
そ の 他	6			2						
合 計	67	1	4	51	2	2		1		10

事故種別	応急処置	その他の 応急処置	静 脈 路 確 保		薬 剤 投 与		血圧 測定	聴診器に よる聴取	血中酸素飽 和度の測定	心電図	血糖測定	合 計
			CPA前	CPA後	アドレナリン	ブドウ糖投与						
急 病	5		30	27	24	14	2,085	421	2,116	760	135	6,377
交 通			1				113	24	113	18	2	349
一般負傷				5	5		485	32	495	39	3	1,417
そ の 他			2	4	5		678	39	684	172		1,861
合 計	5		33	36	34	14	3,361	516	3,408	989	140	10,004

1. 止 血 直接圧迫、止血帯、包帯等による止血処置
2. 固 定 副子等による固定又は安静保持
3. 人工呼吸 口対口又は器具等による人工呼吸
4. 胸骨圧迫 胸骨圧迫心マッサージ
5. 心肺蘇生 心肺蘇生法
6. 酸素吸入 酸素吸入器による酸素吸入
7. 保 温 傷病者の状況から保温を保持する必要がある場合に行う保温処置
8. 気道確保 気道の確保のための処置並びに口腔内清拭及び吸引の処置
 - ※1 経鼻エアウェイを使用しての気道確保
 - ※2 喉頭鏡・マギール鉗子等による異物除去
 - ※3 救急救命士法に基づき重度傷病者に対して行う救急救命処置のうち、ラリングアルマスク等を使用しての気道確保
 - ※4 救急救命士法に基づき気道確保のための処置で救急救命士が行った気管挿管処置
9. 被 覆 創傷をガーゼ等で被覆する創面保護
10. 在宅療法継続 在宅療法継続中の傷病者に対しその療法維持のために行った必要な処置及び在宅療法に異常があった場合に行った応急処置
 - ※A 在宅中心静脈栄養管理・在宅化学療法等により点滴処置が施されているもの
 - ※B 気管切開孔又は気管瘻、人工肛門等の外瘻処置が施されているもの
 - ※C ※A、※B以外の処置が施されているもの
11. ショックパンツによる血圧保持 ショックパンツを使用した血圧保持の処置
12. 除 細 動 重度傷病者に対して行う救急救命処置のうち、自動体外式除細動器(AED含む)による除細動
13. 静脈路確保 CPA前～救急救命士法に基づき心肺機能停止前に行う静脈路確保のための輸液
CPA後～救急救命士法に基づき重度傷病者に対して行う救急救命処置のうち、薬剤を用いた静脈路確保のための輸液
14. その他の応急処置 1から13以外の応急処置
15. 血圧測定 血圧計を使用しての血圧測定
16. 聴診器による心音・呼吸音等の聴取 聴診器を使用しての心音・呼吸音等の聴取
17. 血中酸素飽和度の測定 血中酸素飽和度測定器を使用しての血中酸素飽和度の測定
18. 心 電 図 心電計を使用しての心電図の測定
19. 薬剤投与 救急救命士法に基づき重度傷病者に対して行う救急救命処置のうち、アドレナリンの投与
20. ブドウ糖投与 低血糖傷病者へのブドウ糖溶液の投与
21. 血糖測定 救急救命士法に基づき救急救命士が行なった血糖測定

急病にかかる疾病分類別搬送人員の状況

令和7年1月1日～12月31日

分類項目別	循環系		消化器系	呼吸器系	精神系	感覚器系	泌尿器系	新生物	その他	症微診不	合 計
	脳疾患	心疾患等									
搬 送 人 員 (人)	182	280	209	236	66	112	134	107	470	390	2,186
構 成 比 (%)	8.33	12.81	9.56	10.80	3.02	5.12	6.13	4.89	21.49	17.84	100.0

1. 急病に係る疾病分類とは、事故種別の急病については初診時における医師の診断に基づく傷病名をWHO(世界保健機関)で定める国際疾病分類(ICD)により分類したものである。
2. 「脳疾患」とは、脳血管疾患をいう。
3. 「新生物」とは、胃の悪性新生物、白血病等その他の悪性新生物及びその他の新生物をいう。
4. 「症微診不」(症状・微候・診断名不明確の状態)とは、腹痛、頭痛、失神、めまい等の疾病をいう。
5. 「その他」とは、上記の循環系から新生物までに分類された以外の疾病分類の全てである。

救助事故種別出動件数

令和7年1月1日～12月31日

(単位：件)

事故種別 件数区分	火災		交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機 械 に よる 事故	建物等に よる 事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事 故	合 計
	建物	建物以外									
岩 見 沢 市	4		21	1			46			58	130
月 形 町			4			1	1			2	8
そ の 他 の 市 町 村			1								1
合 計	4		26	1		1	47			60	139

救助活動件数・救出人員数調

令和7年1月1日～12月31日

(単位：件、人)

事故種別 件数区分	火災		交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機 械 に よる 事故	建物等に よる 事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事 故	合 計
	建物	建物以外									
活 動 件 数	4		17			1	32			7	61
救 出 人 員	4		18			1	32			7	62

1. 火災とは、火災現場において、直接火災に起因して生じた事故をいう。
2. 交通事故とは、すべての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故若しくは歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故をいう。
3. 水難事故とは、水泳中の溺者又は水中転落等による事故をいう。
4. 風水害等自然災害事故とは、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火、雪崩、地すべり、その他の異常な自然現象に起因する災害による事故をいう。
5. 機械による事故とは、エレベーター、プレス機械、ベルトコンベアその他の建設機械、工作機械等による事故をいう。
6. 建物等による事故とは、建物、門、柵、へい等建物に付帯する施設又はこれらに類する工作物の倒壊による事故、建物等内に閉じ込められる事故、建物等に挟まれる事故等をいう。
7. ガス及び酸欠事故とは、一酸化炭素中毒その他のガス中毒事故、酸素欠乏による事故等をいう。
8. 破裂事故とは、火災現場において直接火災に起因して生じた事故以外のボイラー、ボンベ等の物理的破裂による事故をいう。
9. その他の事故とは、上記に掲げる事故以外の事故で、消防機関による救助を必要としたものをいう。

救急講習会の実施状況

各年1月1日～12月31日

年 別 区 分		令和7年	令和6年	令和5年
一 般 講 習	回 数	65 回	51 回	50 回
	受講者数	1,531 人	1,022 人	797 人
普通救命講習	回 数	33 回	35 回	45 回
	受講者数	603 人	420 人	572 人
上級救命講習	回 数	0 回	1 回	回
	受講者数	0 人	1 人	人
救命入門コース	回 数	1 回	3 回	回
	受講者数	8 人	50 人	人
普 及 員 講 習	回 数	2 回	回	回
	受講者数	12 人	人	人
合 計	回 数	101 回	90 回	95 回
	受講者数	2,154 人	1,493 人	1,369 人

1. 一 般 講 習 応急手当等の基礎的な知識を習得させる講習。
2. 普通救命講習 AEDを含め、ある程度専門的な技術を習得させる講習で、受講者には修了証を交付。
3. 上級救命講習 普通救命講習の他に、傷病者管理法、手当の要領、搬送法を習得する講習。
4. 救命入門コース 胸骨圧迫及びAEDの取扱いを習得させる応急手当の導入講習。
※「応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」の一部改正に伴い、令和7年10月1日より「救命入門コース」は廃止。
5. 普 及 員 講 習 事業所、団体、地域等で応急手当の指導・普及に当たるものを養成する講習。

□救急業務の高度化の流れ

- ▽平成15年4月 … 「救急救命士法」の改正→「指示なし除細動」の実施が可能となる。
- 平成16年5月 … 救急救命士による”包括的指示下”での「除細動実施」の運用開始。
- 平成16年7月 … 医師の指示を受けて救急救命士による「気管挿管」の実施が可能となる。
市民の「AED(自動体外式除細動器)」の使用が可能となる。
- 平成17年5月 … 市民に対して「AED講習」の開始。
- 平成18年4月 … 医師の指示を受けて救急救命士による「薬剤投与」の実施が可能となる。
- 平成21年3月 … 「エピペン(自己注射が可能なエピネフリン製剤 別名アドレナリン)」
の投与が可能となる。
- 平成23年8月 … 「ビデオ硬性挿管用喉頭鏡による気管挿管」の実施が可能となる。
- 平成26年4月 … 「心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液」の実施が可能
となる。
「血糖測定」並びに「低血糖発作症例に対するブドウ糖溶液の投与」が可能
となる。